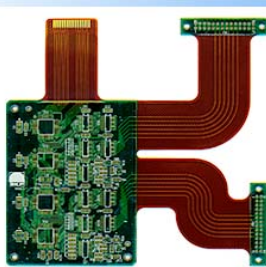


経営課題

技術の伝承、共有
財務状況把握のスピード
アップ

課題解決策

業務、製造のプロセスの
標準化
知識、ノウハウのDB化ITによる
課題解決策基幹系業務へのIT活用
ノウハウ共有へのIT活用

代表者：尾崎 陽介
 本社所在地：東京都国分寺市
 東恋ヶ窪3丁目21-18
 売上高：19億円
 従業員：100名
 創業：昭和40年12月

【製造業から創造業へ】

産業機器向けに特化し、特に宇宙・航空分野、半導体検査機器、ハイビジョン放送機器等の高信頼、長寿命、トラブルの許されないシーンで活躍する製品を製造

業務の標準化、知識ノウハウの伝承が急務だった

社長の困りごと・想い

1. 現在の技術力を維持していけるかどうか。古くからの社員は持っているノウハウを語らない、若い社員は聞くことができない環境であった。コミュニケーションの為の共通の言語を必要としていた
2. 財務状況を把握するのに時間を要していた

きっかけは？

1. システムは存在していたが一連の業務の流れをサポートするものではなく、一部の処理の省力化を行うためのものであった。
2. 経理システムは存在するが運用には載らず、請求書発行等のワープロの延長。伝票、台帳の作成は手作業であった。
3. オフコンによる生産管理システムは存在するが、バーコードによる実績の集計のみで使用で残りは手作業であった。
4. 業務、製造の曖昧さをなくす為にその枠組みとしてシステムの導入を検討、業務プロセスを標準化の検討を開始した。

こうして解決した

1. 新システム構築の為に各部門からメンバーをノミネートし検討チームを検討した。
2. 全社業務を一元的にサポートするシステムを構築する為に各種業務フローと全社としての最適化を図る為にパッケージシステムをベースに検討を進めた。
3. 構築にあたっては使い勝手、ユーザーインターフェースにはこだわりシステムの開発を進めた。
4. システムが定着、活用される為に企画、導入、定着までの旗振りを実施。使用環境の整備、雰囲気づくり、社員からの質問対応、ITを何に活用すべきか等の問い合わせを実施し、IT化を推進した。

社長の一言

リードタイムの把握、納期の即回答、原料費の削減在庫の削減等が可能となった。

経験の浅い社員でもシステムに蓄積されたノウハウを活用することにより困難な課題を解決出来るようになった。

経営者の気づき
フェーズ事例経営戦略
フェーズ事例IT戦略策定
フェーズ事例IT資源調達
フェーズ事例IT導入
フェーズ事例ITサービス活用
フェーズ事例

こうして経営課題を解決した

全社の業務・製造プロセスの標準化に向けたパッケージベースのシステム構築

システムは以前より存在していたが業務の流れをサポートするものではなく、一部の処理を省力化を行う為のものであった。また、生産、技術に関するノウハウの伝承していけるかどうかは課題であった。そこで、製造を含む全社プロセスの曖昧さをなくす為に販売、生産管理、経理システムは連携した汎用的なパッケージをベースにしてシステムを構築、また過去の設計情報、製造情報をDB化し生産性の向上、技術・生産に関する情報の共有をはかりました。

課題解決のポイント

◆業務プロセス再構築へのIT活用

統合システム(パッケージ)を導入(販売、生産、会計)の導入により受注～設計～生産～出荷売上の一貫した流れをサポート、標準化、情報の一元管理を目指した。

◆ノウハウ蓄積・伝承、コミュニケーションツールとしてのIT活用

- ・過去の設計情報、製造情報をDB化し生産性の向上
- ・ノウハウの蓄積

◆使い易さを追求

- ・統合システムのフロントエンドにビジュアル的GUI作成
- ・プリント基板製造に特化したシステム構築
- ・設計、製造の工程順番、仕様構成をビジュアル表現
- ・リードタイム・納期管理にスケジューラーの組み込み

【成果】

- ・製造プロセスの標準化による生産のリードタイムの短縮
- ・納期回答が即可能
- ・製造負荷の平均化で、残業コストの削減
- ・納期基準による製作スケジュールが可能
- ・製造原価に占める原材料費の削減
- ・材料在庫は1/3の期末在庫減少
- ・人件コストの削減
- ・完全受注製品であるが過去の類似品製造履歴より情報を得て活用することにより歩留向上

IT活用成功のポイント

1. 新システム構築の為に各部門からメンバーをノミネートし検討チームを検討した。
2. 全社業務を一元的にサポートするシステムを構築する 為に各種業務フローと全社としての最適化を図る 為にパッケージシステムをベースに検討を進めた。
3. システムが定着、活用される為に企画、導入、定着までの旗振りを実施。使用環境の整備、雰囲気づくり、社員からの質問対応、ITを何に活用すべきか等の問いかけを実施し、IT化を推進した。
4. 社外人材の活用場面と効果

社内にIT要員を有していない為、運用は外部ITベンダーを活用。インシデントの共有及び今後の改善の検討を含め一体となり進めている。

活用した公的施策や表彰等

2008年 IT経営実践企業 認定(経済産業省)



■ 清水 久直

ITコーディネータ
認定番号:0052852004A

<キャッチフレーズ>

東京都、システムベンダーに在籍し、企業内ITCとして多くのお客様に携わっております。